

2014年10月8日 発

学校法人東北学院 法人事務局広報部広報課
〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋1-3-1
電話:022-264-6423 / E-Mail: koho@tohoku-gakuin.ac.jp

報道関係各位◇取材のご案内

シンポジウム

『海と向きあう人々の民俗学』

10月25日(土) 13:30~16:00

石巻市慶長遣欧使節船ミュージアム(サン・ファン館)で開催

場 所:宮城県慶長遣欧使節船ミュージアム(サン・ファン館) セミナールーム

定 員:120名 *事前申し込みは不要です。当日9:30より整理券を配布

主 催:公益財団法人慶長遣施設船協会

共 催:東北学院大学博物館

後 援:宮城県、石巻市、石巻かほく、石巻日日新聞社、ラジオ石巻FM76.4

【 会場案内 】



【本件に関するお問い合わせ】

東北学院大学博物館

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

TEL.022-264-6920 FAX.022-264-6917

e-mail: museum@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

【ごあいさつ】

世界三大漁場のひとつに数えられることもある“三陸沖”は、寒流と暖流がぶつかり合うことから豊富な海洋資源をたたえるホットスポットである。その南部にあたる宮城県の牡鹿半島から気仙沼にかけての沿岸部の集落では、漁業や養殖業、捕鯨業、水産加工業などが発達してきた。しかしそれと同時に、地震と津波をはじめとする災害に幾度となく見舞われながら、そのたびに時代に対応しながら復興を遂げてきた歴史がある。

東日本大震災ではかつてない規模で文化財レスキューが行われたが、そこから新たな漁民の文化が明らかになりつつある。広範な漁民の技術交流、漁業資本による災害復興、漁業・養殖業の産業化、捕鯨産業の盛衰……。そして、そこにひとり一人のくらしの風景と人生の営みを見ることができる。

今回のシンポジウムでは、海と向き合う人々の、くらしや人生を民俗学からどのようにとらえられるかを切り口に、これからの三陸の海の文化の研究を展望してみたいと思います。

(東北学院大学歴史学科:加藤幸治)

【 関連企画 】

東北学院大学連携展示

「牡鹿半島・ 海とくらしの風景」

一世紀以上の歴史がある牡鹿半島・鮎川の捕鯨文化を、古い写真と民具で振り返ります。

日時：10月11日(土)～10月26日(日)

《場所》

宮城県慶長使節船ミュージアム(サン・ファン館)展望棟ギャラリー

東北学院大学民俗学ゼミナール聞き書き調査

牡鹿半島のくらしを 未来に伝えよう

文化財レスキューされた民俗資料の使い方等が不明です。ぜひ、昔のくらしの思い出話を聞かせて下さい。

日時：①10月25日(土)午前 ②10月26日(日)終日

【 プログラム 】

13:30 開会あいさつ

- 宮城県慶長使節船ミュージアム館長 濱田直嗣

13:40 基調報告

「日常生活を民俗学はどのように捉えてきたのか—「海女という生きかた」をめぐる—」

- 小島孝夫（成城大学文芸学部・教授）

素潜り潜水漁に従事する海女たちは、「海女しかなかった」と言うが、むしろ、「海女があった」からこそ、今日にいたる生活が維持できたのである。潜水漁の諸相を題材として、海に生きる人びとの生き方を捉え直してみたい。

14:15 事例報告 —文化財レスキューから民俗研究へ—

「気仙沼市小々汐・尾形家の物質文化からみえる地域」

- 葉山茂（国立歴史民俗博物館・特任助教）

人びとは三陸の海岸でどう生きてきたのだろうか。国立歴史民俗博物館が気仙沼市小々汐の個人住宅で行なった文化財レスキューの結果から、個人住宅の物質文化を手がかりに地域社会のこれまでの営みを考えたい。

「牡鹿半島の海の技術とそれぞれの人生」

- 加藤幸治（東北学院大学文学部・准教授）

牡鹿半島には、磯根漁業、陥穽漁、底曳漁、近海での刺し網、大謀網と称する大規模定置網、養殖業、そして捕鯨と、様々な海の技術がある。聞き書きによる人々の人生のエピソードから、半島の漁撈文化を展望してみたい。

「志津川湾の暮らし —民具から見えてくるもの、民俗から見えてくるもの—」

- 小谷竜介（東北歴史博物館・学芸員）

私は、文化財レスキュー事業に関わり、多くの文化財の救済に携わった。しかしながら、震災前に最も長く関わった志津川湾地域での活動は十分にできなかった。そのことと、震災後の実践を通して、改めて志津川湾地域を考えてみたい。

— 休 憩 —

15:15 討論会

- コーディネーター：加藤幸治

16:00 閉会あいさつ

※展示終了後、展望棟ギャラリーにて、東北学院大学の学生による連携展示「牡鹿半島・海の暮らしの風景の解説案内」

【本件に関するお問い合わせ】

東北学院大学博物館

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

TEL.022-264-6920 FAX.022-264-6917

e-mail : museum@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

【現在開催中】

Supported by  日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

船の科学館・海と船の博物館ネットワーク

7.21 → 10.26



慶長遣欧使節出帆400年記念事業

海のまちと希望の帆船

7月21日(祝・月)は、
海の日のため入館無料!!

◎企画展示

- ・慶長使節派遣と慶長大津波
- ・「サン・ファン・パウティスタ」と石巻の人びと
- ・震災を乗り越えたサン・ファン・パウティスタ

◎シンポジウム

第一部「海と向き合う人々の民俗学」

10月25日(土)

場所/サン・ファン館 セミナールーム

◎企画展パネル巡回展

◎東北学院大学連携展示

「牡鹿半島・海のくらしの風景」

10月11日(土)～26日(日)

ただ今開催中
10月25日(土)・26日(日)
両日は、東北学院大学の学生たちによる聞き書き調査を実施します。
◆
25日(土)のシンポジウムと合わせての取材を、文化財レスキューの学生一同お待ちしております。
▼
次ページに詳細情報



慶長使節船「サン・ファン・パウティスタ」(宮城県慶長使節船ミュージアムに展示公開中)



 **サン・ファン館**
宮城県慶長使節船ミュージアム

〒986-2135 宮城県石巻市渡波字大森30-2
TEL 0225-24-2210 URL <http://www.santjuan.or.jp/>
E-mail info@santjuan.or.jp
【入館料】 一般700円(高校生以下無料)
【開館時間】 午前9時30分～午後4時30分 ※8月中は午後5時30分まで(最終入館は閉館30分前まで)
【休館日】 毎週火曜日(祝祭日を除く)

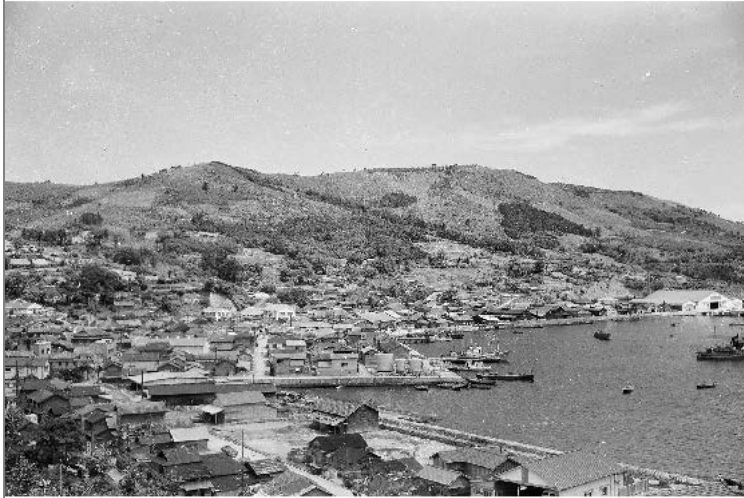
■主催: 宮城県慶長使節船ミュージアム(愛称:サン・ファン館) 公益財団法人慶長遣欧使節船協会
■後援: 宮城県、石巻市、河北新報社、石巻かほく、石巻日日新聞社、(株)仙台放送局、TBC東北放送、仙台放送、NHK-FM、NHK-E3東日本放送、ラジオ石巻FM76.4

予 告

2014年度は、来る2月9日(月)～15日(日)まで、石巻市のイオンモール石巻において「牡鹿半島のくらし in 石巻」を開催いたします。会期中、14日(土)・15日(日)の両日、文化財レスキューの学生たちによる聞き書き調査が行われます。皆さまの来場をお待ちしております。

【現在開催中】7月21日 ⇒ 10月26日(日)まで『牡鹿半島・海のくらしの風景』

捕鯨で栄えた牡鹿半島・鮎川のおもかげ



サンファン館・東北学院大学博物館
(鮎川の風景を思う会: 資料提供)

連携展示

牡鹿半島・海のくらしの風景展
古写真と民具で
振り返る
捕鯨の町・鮎川

平成26年 10月11日(土)～
10月26日(日)

宮城県慶長使節船ミュージアム(サン・ファン館)
〒986-2135 宮城県石巻市渡波字大森30番地2
電話: 0225-24-2210 <http://www.santjuan.or.jp/>

東北学院大学連携展示

「牡鹿半島・海のくらしの風景」展

牡鹿半島の先端に位置する鮎川は、近代捕鯨の前線基地として明治初期から栄え、商業捕鯨禁止後も小型沿岸捕鯨を中心に捕鯨文化が育まれてきました。

今回の展示では、文化財レスキューされ保全作業が終わった旧鮎川收藏庫の捕鯨用具、大震災前に地域で収集された古写真などを展示し、昭和初期から中期の鮎川の捕鯨と鯨まつりの風景をふりかえります。

とりわけ古写真は、「鮎川の風景を思う会」からの提供によるもので、現在東北学院大学の学生がその整理と内容の調査を始めているものです。今後も、地域で展示する機会を作っていこうと考えています。

みなさんの胸のうちに今も鮮明にある、くらしの風景を、こうした資料からよみがえらせていきましょう。

東北学院大学文学部准教授
加藤 幸治

時代を超えてよみがえる
底抜けに楽しいくらしの風景!



利用案内

- * 開館時間
午前9時30分～午後4時30分
- * 休館日
毎週火曜日
- * 入館料
本展は無料ゾーンで開催しています
(展示とドック様の見学は別途入館料必要)

